

幼児の遊びとリズムに関する研究

——東広島市内某保育園の場合——

福 原 麻 子

Research on Amusement and Rhythm of a Little Child
—Circumstances of Higashi Hiroshima City Nursery School—

Asako FUKUHARA

幼児の生活は遊びがすべてであり、遊びそのものがリズムである。幼児の生活の大部分は、体育の生活であると云ってもよい。幼児は冒険が大好きである。絶えず新しい経験を求めて動作をしている。それを自分のものにするまでは、あきずにくりかえしている。高いところにのぼって跳びおりたり、泥んこになっておでこや、ひざ坊に傷をつくっては大人達をはらはらさせてくれる。固定施設や遊具を使った遊びなど、始めはびくびくしていてもすぐに馴れて上手に駆使している。遊具施設は、遊びと一体のものであり、遊びを誘発し発展し充実させる貴重な存在と云える。

リズムカルな遊びは、幼児の最も得意とするところである。リズムの波にのって動く楽しさは本能的にもっている。幼児がみたり、聞いたり、経験したことや想像したことを、運動を通して表わすのが、幼児の表現活動である。自分の体を通してくりかえし重ねて覚えていく、その発達過程は、実にめざましく身体的にも、精神的にも促進されていく幼児期である。

目 的

実際に幼児の動きをとらえ、観察記録することにより、幼児の遊びとリズムの重要性を考察する。

方 法

調査期間

昭和55年10月13日～11月中旬

調査対象

東広島市内某保育園児

3才児 17名 (男児10名 女児7名)

4才児 16名 (男児7名 女児9名)

5才児 22名 (男児11名 女児11名)

計 66名である。

調査 1.

保育時間前の自由時間30分間の (9時～9時30分) 幼児全体の遊びと、3, 4, 5才児のクラスから、活動的な幼児と、消極的な幼児の男女それぞれの動きの観察記録をとる。

3才児はピンク、4才児は黄、5才児は青の帽子をかぶって年令区別する。

調査 2.

当保育園で行われている、幼児のリズム遊び時間の基礎的な動きと、リズム運動を3, 4, 5才児を全体的に比較して観察してみる。

調査 3.

当保育園での、自由表現の動きの活用をみる。

結果と考察

幼児の全体的な遊びをみてみると、3, 4, 5才児のクラス人数を百パーセントとしてみてみると、表Iの通りである。

表Ⅰ 昭和55年10月13日～11月中旬までの全体の遊びの記録

| 施設 | 遊具 | 3才児 | | 4才児 | | 5才児 | |
|----------|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 50 | 100 | 50 | 100 | 50 | 100 |
| ① 固定施設 | ブランコ | ■ | | ■ | | ■ | |
| | 回転スベリ台 | ■ | | ■ | | ■ | |
| | ジャングルジム | ■ | | ■ | | ■ | |
| | 宇宙船ジャングルジム | ■ | | ■ | | ■ | |
| | 鉄棒 | ■ | | ■ | | ■ | |
| | タイコ橋 | ■ | | ■ | | ■ | |
| | 円筒回転塔 | ■ | | ■ | | ■ | |
| | 綱回転塔 | ■ | | ■ | | ■ | |
| | 屋内スベリ台 | ■ | | ■ | | ■ | |
| | シーソー | ■ | | ■ | | ■ | |
| | トラ・パンダ | ■ | | ■ | | ■ | |
| ② 器具 | トランポリン | ■ | | ■ | | ■ | |
| | 三輪車 | ■ | | ■ | | ■ | |
| | ワンダスケート | ■ | | ■ | | ■ | |
| ③ 簡単な用具 | ポッピングホース | ■ | | ■ | | ■ | |
| | 積木(プラスチック製) | ■ | | ■ | | ■ | |
| | ブロック(〃) | ■ | | ■ | | ■ | |
| | ナワトビ | ■ | | ■ | | ■ | |
| | ボール | ■ | | ■ | | ■ | |
| | ハウス(木造) | ■ | | ■ | | ■ | |
| ④ 自然地形 | 砂場 | ■ | | ■ | | ■ | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| ⑤ 何も使わない | 追かけごっこ | | | ■ | | ■ | |
| | 友だちと遊ぶ | | | ■ | | ■ | |
| | ひとり | ■ | | ■ | | ■ | |
| | ボツンとしている | ■ | | ■ | | ■ | |
| | けんか | ■ | | ■ | | ■ | |

① 固定施設では、ブランコが5才児に一番人気があり、活動的にのっている。面白いことには、ブランコを全部5才児が占拠している。4才児の時、全

部4才児がのっている。3才児の時、3才児だけがのっている。ただし、3才児のなかには、活動的に振ることは出来なくて坐っているだけの幼児もいる。

鉄棒は、4才児に人気があった。とびあがったり、前回転に幾度も挑戦している光景がみられた。5才児になると活動的な幼児は逆上りも出来る。3才児は腕の力がまだ弱いので、保母の手助けて遊ぶ。スベリ台については、屋外の回転スベリ台には、4、5才児がよくのり、屋内スベリ台では3才児がよく滑っている。正常の滑りかた以外に、うつぶせや反対にのぼっていく動作で遊んでいる。

② 器具遊具には、トランポリンに人気があり、屋内で使用するようになってきているが、雨天にかかわらず遊んでいる。三輪車も家庭で持っている三輪車と違って大型であるため人気がある。トランポリン、ワンダスケート等は、3、4、5才児ともに比較的、活動的な幼児がのって遊んでいる。

③ 簡単な用具では、ポッピングホースであるが、ゴム製品でバスケットボールを大きくした遊具である。馬の耳にとつてがついてるのを持ってピョンピョンとホップしながら声をあげている。3、4、5才児とも長くはのっていないが、大人がのっても痛快である。積木はプラスチック製で、3、4、5才児のものもの等を模造して組立ててから後押しをしながらか走っている。又木造のハウスの中に入りこんで、じっくりとブロックの組立てにとりくんでいる姿がみられた。ボール遊びも、11日の寒い日に4才児がボールけりをしていたが、女兒の場合は、マリつき遊びをしていた。

④ 地形や自然では、季節的に寒風や雨の日があったため、砂場での遊びは3才児の少数しかみられなかった。4、5才児は調査中にみなかった。

⑤ 何も使わないでは、5才児では追いかけごっこほかに、鬼さんごっこの遊びをみる。3、4才児のなかに、ポツンとしている幼児がみられた。友だちの遊びをみているのでなく、なんとなくポツンとしているようだった。ひとり遊びには、絵本をみたり、屋内のあちこちと歩きまわっている感じだった。5才児は友だちと遊具を使って遊びごっこの行為が多くみられた。3、4才児ではひとり単位での遊びの動きが主であって、遊具から遊具と屋内外とも移動は走っている。

3、4、5才児の担当保母の協力を得て活動的な幼児、消極的な幼児の男女を選出してもらい、被験者には肩

から赤ダスキを目じるしにかけて動きの観察記録したのが表 II である。

表 II では、3才児の記録をとる時、雨天であったためすべて屋内遊具である。活動的な3才児の男女は、一つの遊具を5分ももたない。遊具から遊具へとすばしっこくとびまわっている。4才児ではトランポリンにのりてもリーダ格になっている。ブロック組立には、じっくりと取りくんでいる。3、4才児の活動的な男女幼児は、いづれも体力的に遊具を使って遊んでいる。消極的な3、4才児は、遊びのなかでどうしてもポツンとしている場面がみられた。5才児になると、活動的な幼児と消極的な幼児の遊びの差は余りみられなかった。

遊具施設の中での幼児の全体的な動きは、走る、振る、ゆれる、ける、ぶらさがる、のぼる、とびあがる、ころがる、すべる等がある。これらの動きが興味と冒険のくりかえしに挑戦させ、幼児にとっての動きの重要な働きであると云える。

次に当保育園では、午前9時30分から10時30分までの約一時間を礼拝をはじめ乾布摩擦、リズム遊びとリズム運動の時間となっている。

ハトポッポ体操、カスターネット体操、ラジオ体操等のなかからリズムの動きの観察記録したのが表 III である。

走る、跳ぶの動きは幼児期の特有のものであるから遊びのなかでも自然にみられた。アクセントつけての手拍子、またアクセントつけてとぶスキップの動きは、3才児には成長段階からみると、まだ無理なようにみえたが、女兒のなかには出来るものもいた。4才児では、女兒の方が上手にすぐリズムにのれるが、男児には反応のおそいものもいる。5才児では、たいていのリズムパターンには反応できる。また女兒の遊びのなかに時々スキップがみられた。活動的な3才男児が前半の遊び疲れが出てアクビの連発でリズムに対しての反応がおそい面がみられた反面、消極的な3才児の男女と4、5才児いづれもリズム反応が早い。

当保育園の乾布摩擦は、健康と体力づくりとして園児全員、素足と一諸に励行されている。音楽にあわせて乾布摩擦のあとは、当番の5才児が、全園児のなかから体の赤くなっている幼児の名前を呼びあげ、呼び

表 II 矢印が遊びの順序である (30分間)

| | 活 動 的 な 幼 児 | 消 極 的 な 幼 児 |
|------------------------|--|---|
| 10月14日 (雨) 3才児 (A男) | 三輪車→ホッピングホース→トランポリン→ 三輪車→トランポリン→ワングスケート→ トランポリン→けんか→ワングスケート→ トランポリン→積木→三輪車→積木→三輪 車 — | じっとしている→シーソ→ひとり遊び→積 木 — |
| 3才児 (B女) | 積木→トランポリン→積木→トランポリン →ナワトビ→ゴムマリ→ホッピングホース→ 三輪車 — | ホッピングホース→トランポリン→屋内スベ リ台→じっとしている — |
| 10月16日 (曇) 4才児 (C男) | ブロック→道具持って走る→積木→トラン ポリン→ブロック→三輪車 — | ブロック→ひとり遊び→ワングスケート→ ブロック→ポツンとしている→屋内スベリ 台→絵本→トランポリン — |
| 4才児 (D女) | ブロック→三輪車→トランポリン→三輪車 →組立トンネル — | 屋内スベリ台→友だち遊び→ナワトビ→ポ ツンとしている→コーナーに入ってじっと している — |
| 10月23日 (晴) 5才児 (E男) | ブランコ→綱回転塔→シーソ→円回転塔→ シーソ→ブランコ→円回転塔 — | くさりのぼり→鉄棒→宇宙船ジャングルジ ム→鉄棒 — |
| 5才児 (F女) | ブランコ→ナワトビ→シーソ→友だちと遊 ぶ→ブロック — | 鉄棒 — |

表 III 好天気の場合は屋外、雨天の場合は屋内で行なわれた

| 動 作 | 年令 | 動 き | 動 作 | 年令 | 動 き |
|--------------|----|---------------------|--------------|----|------------|
| 片 足 と び | 3 | リズムにあわないが跳べる | 腕 を 振 る | 3 | 出 来 る |
| | 4 | 出 来 る | | 4 | 出 来 る |
| | 5 | 出 来 る | | 5 | 出 来 る |
| 両 足 と び | 3 | リズムにあわないが出来る | 腕をまわす | 3 | まだ無理なようである |
| | 4 | 出 来 る | | 4 | 出 来 る |
| | 5 | 出 来 る | | 5 | 出 来 る |
| ス キ ッ プ | 3 | むつかしいようであるが出来る幼児もいる | 腕をまげる 伸ばす | 3 | 出 来 る |
| | 4 | 出 来 る | | 4 | 出 来 る |
| | 5 | 出 来 る | | 5 | 出 来 る |
| 腕の上げる 下げる | 3 | 出 来 る | 四つばいで はう | 3 | 出 来 る |
| | 4 | 出 来 る | | 4 | 出 来 る |
| | 5 | 出 来 る | | 5 | 出 来 る |

表 VI

| 表 現 | 3 才 | 4 才 | 5 才 |
|-----------------------|--------------------------------|------------------------|---|
| ライオン | 年長の動作をみている。 | 四つばいになってライオンになっている。 | ほとんどの幼児はライオンになる。 四つばいになって声を出してはえている。 |
| パトカー はしご車 ダンプカー | ハンドルをにぎる動作が出来て走り出すと、ハンドルがなくなる。 | ハンドルを左右にまわしながら声を出して走る。 | 全員出来る。 ハンドルを左右にブーブーと声を出して走っている。 |

あげられた幼児は演出にあがって、チャンピオンとして全園児から拍手をしてもらう、ほほえましい場面がみられた。

次の表現活動であるが、当保育園では表現活動が行なわれていなかったもので、秋の遠足に行った時の動物の様子と、幼児の大好きなものを表現活動としてお願いした。

3, 4, 5 才児の全体的な表現活動を観察したのが表 VI である。

4, 5 才児は、すぐに表現活動は出来たが、3 才児の表現活動は、まだ無理のようで 4, 5 才児の動作をみて楽しんでいるようだった。

ま と め

幼児の遊びたい欲求が自由にのびのびされて、その行為は種々多様であった。遊具から遊具へと跳びかう幼児の動きは無心で一生懸命遊んでいる。

3, 4 才児の遊びは、ひとり単位でほとんど遊具用具で動いている。5 才児になると遊具用具を使って友だちと“ごっこ遊び”の行動がよく眼についた。

次に活動的な 3 才児の男女いずれも、体力的にすばしっこくとびまわり、消極的な幼児の動きが、表 II の通り遊具にふれる回数だけでも大きく差が出て対象

的である。4 才児になると、遊具にふれる回数に差はないが、消極的な男女児いずれも動的な遊具にはあまりふれていない。5 才児は活動的、消極的な男女児共に一つの遊具を楽しみながら挑戦し、満足したら次の遊具に移って行くようだ。

リズムにおいては、4, 5 才児はだいたいリズムパターンにのることができる。3 才児はやはり入園して半年過ぎ、集団行動や、遊具にやっとなついたらりである。一部のリズムに関しては、成長段階からみると無理なようであった。

表現活動では、4, 5 才児はリズムから離れて音楽なしで、表現は出来るが、3 才児ではまだ表現まで行かないようであった。

この一ヶ月の幼児の動きでは、まだまだ満足なデータとは云えない。今後春夏秋冬を通して幼児の遊びとリズムを考察していくことが課題のようである。

参考文献

- 齊藤千代子 幼児の遊びと動きのリズムに関する一考察 第30回 日本体育学会論文集より 1979
三浦貞子ほか三名共著 幼児の動きのリズムと体育遊び 明治図書 1978

Summary

By watching and recording the actions of little children from three to five years old, I considered the importance of the amusement and the rhythm of the children.

Period: October 13th till mid-November 1980.

Result and Conclusion:

As a whole, relating to children's playing, children from three to four years old play by themselves using toys. Children of five years old play with their friends with toys.

I watched the playing of active children and inactive ones. The former children played boldly with their toys and the latter ones stayed alone most of the time. Concerning to the rhythm movements and the expressions, children from four to five years old can respond to the rhythm patterns, but concerning to expressions they were imitative.

Checking from the growth process of three years old children, accent skipping and expressing actions were impossible.

Concerning to the movements of one month old infants, our data are still insufficient. Hereafter our study should be based on watching the playing and the rhythm of children through the four seasons.